

令和3年度広域的人財育成事業 実績報告書

おきたま地域づくり～人と地域をつなぐ事業～

事業概要

趣旨 目的	<p>【趣 旨】</p> <p>置賜地域においても、各自治体で課題となっている少子高齢化や人口減少、地域コミュニティの衰退等の地域活力の低下を招く状態が続いている。</p> <p>置賜地域が将来にわたり地域活力を持続・発展させていくためには、置賜地域にある地域資源を活用した地域全体の活性化に取り組むことが必要であり、地域住民一人ひとりの地域へのかかわりが地域活力の向上につながり地域全体に広がっていくことが何よりも大切になってくる。</p> <p>そのため、本組合では、第5次置賜広域行政事務組合ふるさと市町村圏計画（計画期間平成25年度～令和4年度）に基づき、広域行政ならではの広域的な枠組みでの人財育成事業を計画期間内において長期的な視点で推進する。</p> <p>【目 的】</p> <p>本組合の人財育成事業を通じて、地域住民一人ひとりが地域づくり活動の場で活躍し地元地域へ還元し、交流人口の拡大につなげる。</p> <p>また、地域づくり活動に関わることで地域に対する愛着と誇りを醸成し、自分たちが住む地域活力を持続・発展させるのは、自分たち次第だという意識を誘発することを目的とする。</p>
概要	<p>【事業内容】</p> <p>本組合の人財育成事業は、平成28年度を開始年度として令和4年度まで長期的な視線で実施することを予定しており、地域づくりに関わる人財に対する「きっかけづくり」を事業の骨子とする。</p> <p>事業内容としては、参加した人への地域づくりに対する「気づき」や「きっかけ」を与える場としての役割が主となるため、講義や研修といった「OFF-JT」を中心に事業を進め、最終的には自ら意欲とやる気を持ち自己研鑽に努める「自己啓発」を促すことを目指した事業を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①講座を通じて様々な成功事例や地域づくりに関する知識を学ぶ。 ②地域づくりに関する様々な研修への参加（地域活性化センター主催の研修等）を通じて日本各地の地域や人財との相互交流により見識を深める。 ③フィールドワークや演習を通じて実体験。 ④振り返りにより事業に参加しての成果と今後の目標を確認。 ⑤次年度以降の自発的な活動につなげていくもの。

	<p>【事業イメージ】</p> <p>《人と地域をつなぐ事業のイメージ》</p> <p>受講者は置賜3市5町から公募により選出</p> <p>講師：坂倉 杏介氏（東京都市大学都市生活学部准教授）</p>		
	実施事業	項目	月日
	受講者説明会	R3. 5. 10	受講者へ事業内容を説明
	講座1	R3. 6. 27	私たちはこの地域でどのように生きていきたいか
	講座2	R3. 8. 29	私のやりたいこと×社会によいこと
	フィールドワーク	11/3~4	芝の家、芝のはらっぱ、ご近所イノベーション養成講座、おやまちプロジェクトの視察研修
	講座3	R4. 3. 25~26	私たちはこの地域でどのように生きていきたいか
	交流事業	R3. 7~12	受講者が定期的集まる交流事業

講師

坂倉 杏介 氏（東京都市大学都市生活学部准教授）

多様な主体の相互作用によってつながりと活動を創出する「コミュニティ・プラットフォーム」という視点から、コミュニティの形成過程やワークショップの体験デザインを実践的に研究。地域コミュニティの拠点「芝の家」や大学地域連携の人材育成事業「ご近所イノベーション学校」の運営などを通じて港区のコミュニティ活性化事業を手がけるほか、地域づくりや企業におけるコミュニティ形成プロジェクトに多く携わる。

受講者名簿 [第5期] 計6名

米沢市：男性1名、女性1名、長井市：男性1名、女性1名、南陽市：男性1名、小国町：女性1名

※講座及びフィールドワークは、令和2年度6期生と併せて合計13名で実施する。

事業支援

団体名	所属・職名	氏名
(一財) 地域活性化センター	人材育成プロデューサー	前 神 有 里

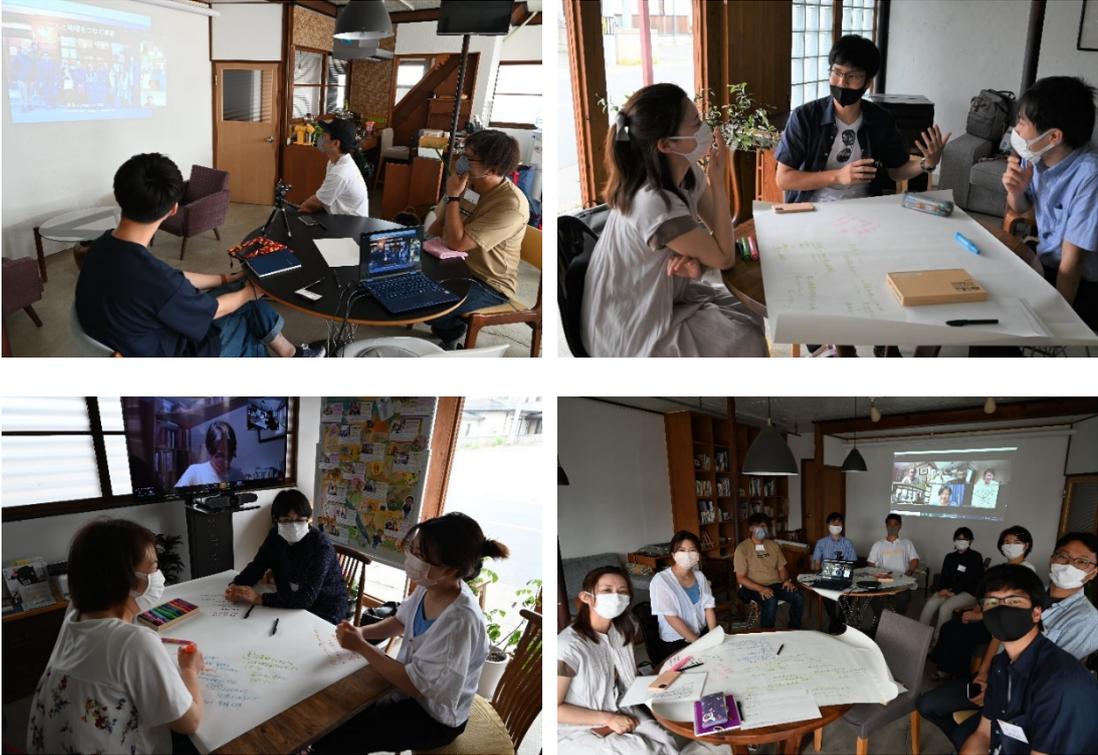
年度別受講者数

年度	性別	米沢市	長井市	南陽市	高畠町	川西町	白鷹町	飯豊町	小国町	計	合計
H28	男性	1				2				3	12名
	女性	5	1				1	2		9	
H29	男性	2		2						4	13名
	女性	6	1		2					9	
H30	男性	1	2				1			4	15名
	女性	4	1	1	1	4				11	
R1	男性	3						1		4	12名
	女性	6	1	1						8	
R2	男性	2							1	3	7名
	女性	1	1			2				4	
R3	男性	1	1	1						3	6名
	女性	1	1						1	3	
計	男性	10	3	3		2	1	1	1	21	65名
	女性	23	6	2	3	6	1	2	1	44	

事業内容

講座1 「私たちはこの地域でどのように生きていきたいか」

項目	内容
参加者	受講者9名
月日	令和3年6月27日(日) 10:00~15:30
場所	受講者:米沢市「スタジオ八百萬」 講師:オンライン
内容	<p>講座は、いまの気持ちをシェアする「チェックイン」から始まり、講師から、人と地域をつなぐ事業のキーワードである「ゆるふわ」について話があった。</p> <p>「ゆる:開かれていて多様性があること。違いを超えてともにあること。」</p> <p>「ふわ:まだ見えていない価値を模索すること。未来を志向すること。」</p> <p>これまでの「地域おこし」の「型」に合わせるのではなく、一人一人が持ち味を発揮して生きること。自分たちの望む未来の暮らし方を実践し、そのために必要なまちをつくること。</p> <p>講座は、私を生かして、まちを活かす。(新しい社会システムをみんなで作くりあう時代へ)、仲間がいなければ、はじまらない。「つながり」と「対話」のうまれる場所とは、「常識」を一歩超えていくには(想いをカタチにしていくなための創造の技法)といった内容で進められた。</p> <p>講座の中で、高齢化が進行し、2035年には、「1.2人で1人の高齢者を支える。」ことを逆に考えれば、「大人7人で若い世代を育てられる社会」として捉えることもできるといった話や、人と人のつながりから新しい価値を生み出す</p>

	<p>基盤としての協働プラットフォーム、これまでの常識にとらわれず未来を生み出すためのシステムチェンジの2ループモデルなどの話があった。</p> <p>講話のあと、受講者同士がどんな人生を送ってきたのか、対話の中で掘り下げる「エナジーカーブ」のシェアを行うワークショップと、「私たちはこの地域でどのように生きていきたいか」をテーマにワークショップを実施し、対話により内容を共有し、最後に2ヶ月で取組んでみたいことを受講者全員が宣言した。</p>
写 真	

講座2 「わたしたちのウェルビーイングをつくるために」

項 目	内 容
参加者	受講者9名
月 日	令和3年8月29日（日）13：00～17：00
場 所	オンライン
内 容	<p>これまでの2か月を振り返ったあと、偏愛マップとペインマップのワークショップを行った。「わたしたちのウェルビーイングをつくりあうために」の講話を聴いたあと、自分の3つのウェルビーイングを書いて共有するワークショップを行った。講師から丁寧に進めていただいたことで、受講者も深く理解することができる時間となった。</p>
写 真	

フィールドワーク

項目	内容
参加者	受講者8名
月日	令和3年12月11日～12日
場所	(1)「芝の家、芝のはらっぱ」東京都港区芝 (2)「ご近所イノベータ学校シンポジウム」慶應義塾大学 (3)「おやまちプロジェクト」東京都世田谷区尾山台

内 容

(1) 芝の家・芝のはらっぱ 対応者：加藤亮子氏（芝の家スタッフ）

港区芝地区総合支所の進める「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」の拠点である芝の家を視察し、加藤氏から受講者に、芝の家と新しくできた芝のはらっぱについて話をしていただいた。「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」は、子どもたちの成長を地域で見守り、井戸端会議では住民同士の親しい会話がある。そんな昭和30年代にあったような「あたたかい人と人とのつながり」の創生をめざす事業である。「あたたかい人と人とのつながり」とは、子どもがのびのびと遊び、お年寄りが安心して暮らせるように、まちに住み働く人たちがお互いに支えあえる関係のこと。事業の拠点である「芝の家」は、現代社会で見失いがちな、こうした暮らしのあたたかさを育てていくため、子ども、大人、お年寄り、住民、在勤・在学者、だれでも自由に出入りでき、住民と共にまちを考え創ることのできる場を提供することを目的としており、慶應義塾大学との協働で行われ、大学と地域が連携しながら、運営を行っている。

(2) シンポジウム「マイパブリックからはじまるご近所イノベーション」

対応者：坂倉杏介氏

基調講演：田中元子氏（株式会社グランドレベル）

ファシリテーター：山口覚氏（津屋崎ランチ）

ご近所イノベーションとは、地域にかかわる一人ひとりがやりたいことをまちにつなげることで実現する新しい地域づくりであり、自分を生かして、まちを活かす。新しい地域づくりを、港区からをテーマに、ご近所イノベーション学校として、想いをまちにつなげるさまざまな講座の実施、ご近所イノベーション活動の情報支援、つながりと活動を生みだす場の運営や、学校という名の新しいかたちの中間支援のプラットフォームづくりを通して、多くのご近所イノベーションが起こる地域を目指しており、港区芝地区総合支所と慶應義塾大学の連携によって実施されている。ご近所イノベーション学校では、自分の想いと持ち味を地域に活かし、人と人、組織と組織をつなげ、創造的な課題解決を実現する人財の育成を目的に、大学や地域の資源を活用した各種の講座を実施しており、今回は第9期の活動発表の見学と基調講演を受講した。

(3) おやまちプロジェクト

対応者：高野雄太氏（おやまちプロジェクト代表理事）

おやまちプロジェクトが設立されてから、これまで4年間の取り組みについて話を伺うため、新たな拠点として完成した「タタタハウス」を訪問した。おやまちプロジェクトの活動が無ければ出会わなかった人たちが出会いつながることのできる場を作る。何度か会う内に仲良くなる。仲良くなると自分の内側にある想いを語るができるようになる。その想いに共感した仲間が集まってくる。プロジェクトが誕生して動き出す。そのプロジェクトがまた新しい出会いをつくる。ということを大切にしていると

の話があった。

また、坂倉先生の視点でも話をさせていただくことで、多角的にこれまでの取り組みを知ることができた。人と地域をつなぐ事業で大切にしていることと親和性が多くあり、受講者がこれから取り組む活動のヒントになる話がたくさんあった。

その後、実際に尾山台商店街を歩き、まちを見ることができたことも良かった。今後、おやまちプロジェクトと人と地域をつなぐ事業の交流も進めていきたい。

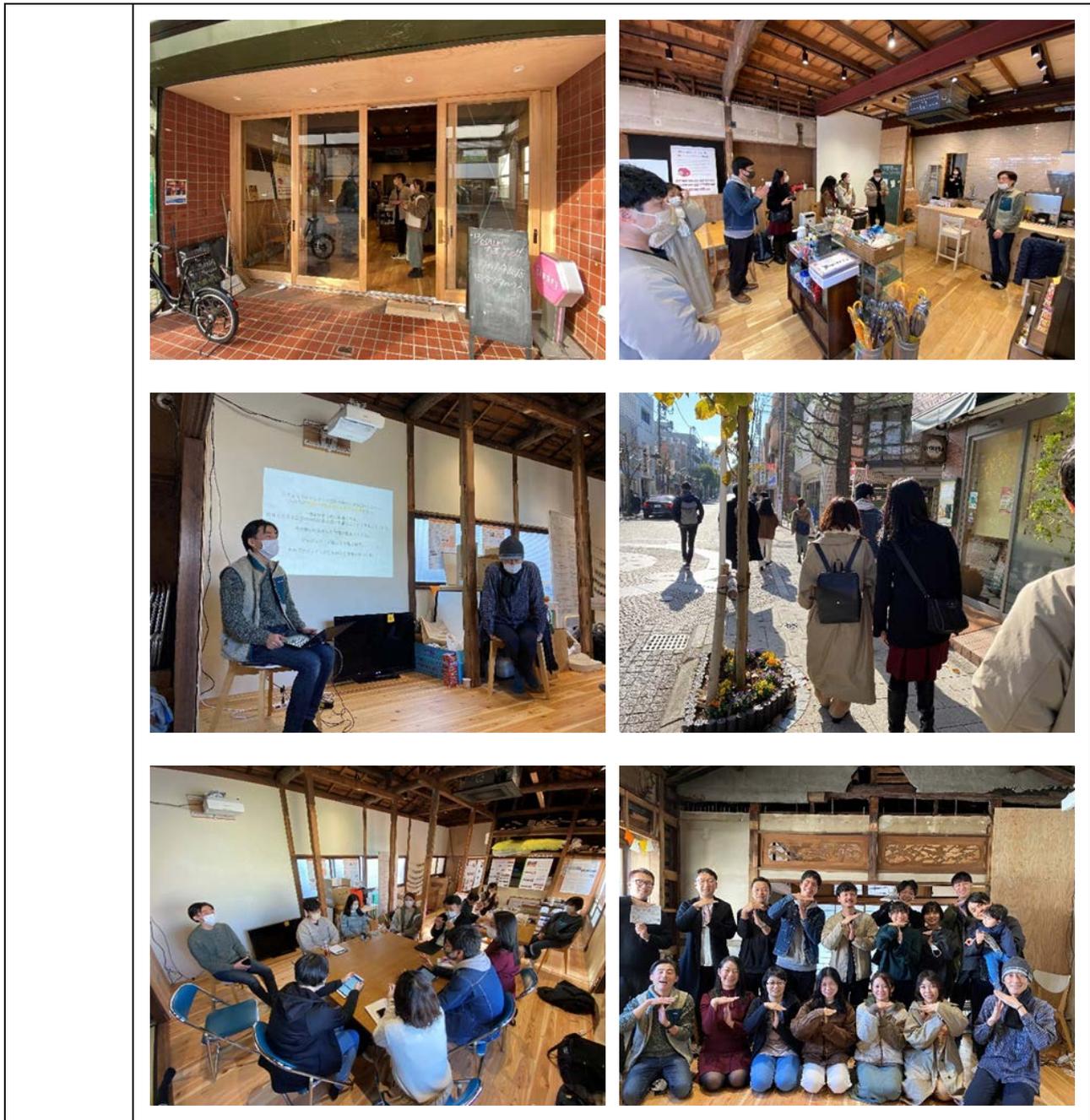
(4) まとめ

人と地域をつなぐ事業の講師である坂倉杏介氏の取り組みである、芝の家や芝のはらっぱ、おやまちプロジェクトを実践者の方の話と併せて、現地で体験することにより、受講者の方が取り組みをより深く理解することができた。

また、オンラインでの事業が続いていたが、今回のフィールドワークで、坂倉氏や他の講師とも直接対面して話を聞くことができ、受講者の方にとっても、学びと交流の機会になった。

写 真





定期的な交流の場づくり事業

項目	内容
参加者	延べ 30 名
月 日	令和3年7月～令和3年12月
場 所	米沢市「スタジオ八百万」、オンライン配信
内 容	人と地域をつなぐ事業の受講者が定期的にオンラインで交流する場を立ち上げ実施した。持続的に交流できる場となった。



講座3 「私たちはこの地域でどのように生きていきたいか」

項 目	内 容
参加者	受講者14名
月 日	令和4年3月25日（金） フィールドワーク 令和4年3月26日（土） 講座3
場 所	令和4年3月25日（金） カモスク、ひみつきちプロジェクト（小国町） 令和4年3月26日（土） スタジオ八百萬（米沢市）
内 容	<p>(1) フィールドワーク「カモスク、ひみつきちプロジェクト」 講師及び受講者と、小国町に桜川酒造の蔵をリノベーションして作られた施設「カモスク」を見学し、一般社団法人YOKAMOSについて、代表理事から話を伺った。 また、小国町の高校生が中心となって、資金調達をクラウドファンディングに挑戦し、空き家を改装して、みんなの遊び場「ひみつきち」を創るプロジェクトを見学し、取り組みについて話を伺った。</p> <p>(2) 3月26日「私たちはこの地域でどのように生きていきたいか」 チェックイン（自分の状態を参加者と共有）のあと、1年間の振り返りを行い、フィールドワークについて参加した受講者の感想を共有した。 午前は受講者が今年度にできたこと、できなかったことを話し合っ共有するワークショップを実施した。 午後は受講者から、これから取り組んでみたいことを聞き、そのことについて、参加者全員でアイデアを出し合うワークショップを行った。</p>

写真



収支決算書

収入 (単位：円)

項 目	金 額	備 考
基金繰入金	888,500	ふるさと市町村圏基金運用益
合 計	888,500	

支出 (単位：円)

区 分	項 目	金 額	備 考
報償費	講師謝礼	406,000	
旅 費	旅費	61,220	
需用費	消耗品費	35,200	
使用料	会場使用料	73,000	
負担金	補助及び負担金	313,080	
	合 計	888,500	

差引 (単位：円)

収 入	888,500	
支 出	888,500	
差 引	0	

おわりに

本組合では、平成28年度からふるさと市町村圏計画の広域活動計画に基づき、広域的人材の育成活用事業として、地域づくりに対する「気づき」や「きっかけ」を与える場として、「おきたま地域づくり～人と地域をつなぐ事業～」を実施している。

これまでの事業では、坂倉杏介氏の講義、受講者同士のつながり、芝の家等を視察した際の港区の方との交流などを実施することで、地域づくりに対する「気づき」や「きっかけ」だけでなく、受講者の自発的な取組みに繋がったことが大きな成果となっている。

6年目となった今年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、通常の講座をオンラインで実施し、フィールドワークを現地で実施した。

これからも引き続き事業を実施するなかで、「気づき」や「きっかけ」を与える場であるとともに、受講者と共に、試行錯誤しながら置賜地域で生き活きと暮らしていくための方法を考えていく事業としていくとともに、港区芝地区芝の家、ご近所イノベータ学校や世田谷区尾山台おやまちプロジェクトとのゆるやかなつながりを続けていきたい。

また、来年度は計画の最終年度となるため、次につながるよう事業を実施していきたい。

講師の坂倉杏介氏、受講者のみなさま、事業の支援をいただいた前神有里氏、人と地域をつなぐ事業に関わっていただいた皆様に、深く感謝申し上げます、報告書の結びとする。